平成21年6月1日
(2009)
第97号
毎月発行
編　集
公民館だより編集室
発　行
西東京市公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館
南町5-6-11
TEL 461－1170

柳沢公民館
柳沢1-15-1
TEL 464－8211

芝久保公民館
芝久保町5-4-48
TEL 461－9825

ひばりが丘公民館
ひばりが丘2-3-4
TEL 424－3011

谷戸公民館
谷戸町1-17-2
TEL 421－3855

保谷駅前公民館
東町3-14-30
TEL 421－1125

梅の季節（とき）を迎えて

梅雨の季節は、梅の収穫の時期です。総持寺で開かれている「うめの市」と梅栽培をしている市内農家をご紹介したいと思います。

うめの市　総持寺参道

西東京市では、総持寺の境内で、6月6日(土)、11日(木)、16日(火)、21日(日)、26日(金)の5日間、うめの市が開かれ、梅干や梅酒に使う青梅が売られています。

このような1と6の日取りは、江戸末期以降に田無で行われていた六斎市（ろくさいいち）の名残りです。

梅の露店は、川越市今福からきたという北田さん、この市に出て61年になります。

北田さんが店を出し始めた頃は、青梅街道沿いでしたが、次第に多くなる車に街道から総持寺の境内に移り、山門が完成してからは現在のように参道に場所を移動しました。

鮮やかな緑と甘酸っぱい独特の香りが、あたり一面にただよっています。

写真提供：西東京市中央図書館

1991年6月6日　総持寺境内

貫井果樹園（市内農家）

親子二代にわたって、果樹園を経営されている二代目の貫井正彦さんに、梅づくりについてお聞きしました。

梅は、用途も広く、梅酒や梅干、ジャムなどに活用され、アルカリ性食品としても注目を集めています。

Q1 梅を栽培するのに苦労されていることは？

A 花粉がないと実がつかないため、交配をする時の天候が気になります。

Q2 消毒はされていますか？

A できるだけ無農薬に近い状態で栽培したいので、年間1～2回です。

Q3 収穫はどのようにされていますか？

A 手作業です。機械での方法もありますが、実が痛むので使用していません。

Q4 収穫の時期と収穫量を教えてください。

A 5月下旬から6月初旬で、年間3～4トンです。

Q5 収穫されたものは、どのように販売されていますか？

A ほとんどが市場に出荷していますが、もしていま若干、自宅で直売です。

Q6 梅の種類を教えてください。

A 関東では白加賀（しろかい。が又は、しらかが）が多く収穫されている。用途は、梅酒に適しています。また関西では、南高が多く収穫され、用途は、梅干に適しています。実の大きさは、小さい割に果肉が多く、実が大きくなるにつれて、赤味がさしてきます。

Q7 梅の大きさは味に関係しますか？

A 味に大きさは関係ありません。ただし、大きい方が果肉があるということで、値段が高くなります。

また、種の大きさは、実の大きさに関係なくほとんど変わりません。

梅酒

（材料）
青梅1kg、氷砂糖（青梅の50％）500g、ホワイトリカー（果実酒用・35度）1・8ℓ

①梅は、洗って水けをふき取り、なり口の黒い部分は竹串でとります。保存びんに梅と氷砂糖を交互に入れ、ホワイトリカーを静かに注ぎ入れ、ふたをします。

②光の入らない涼しい場所に保存します。漬けた当初は、梅は沈んでいますが、約1ヵ月程度で色が変わり、浮いてきます。

③梅は、漬かるにつれて沈み、しわがでてきます。3ヵ月たった頃から飲めますが、こくのある梅酒を味わうには、1年まちましょう。

梅ジャム

（材料）
梅酒の梅　約20個（種を除いて500g）、水2カップ、砂糖150g、レモン汁½個分

①梅はさっと洗い、水を加えて火にかけ、煮立ったら火を弱めて、さらに20分煮る。

②果肉が柔らかくなってほぐれてきたら、木じゃくしでつぶすようにして種を取り出す。

③万能こし器で、裏ごししふたたびなべにもどす。

④砂糖とレモン汁を加え、混ぜながら10分程度煮つめる。

サークル訪問

中国水墨画「龍の会」

水墨画と言うとモノクロな絵を想像しませんか？今回取材した中国水墨画「龍の会」ではモノクロ作品だけでなく、色鮮やかな作品（墨彩画）も描くサークルです。

中国水墨画「龍の会」は、平成8年谷戸公民館の主催講座「中国水墨画入門講座」の受講者有志により発足。現在の会員16人で毎週水曜日に活動しています。先生が手本を描くときは、全員が机の周りに集まり、熱心に先生の手元を見つめます。また、年に2回の作品展示を行うなどみなさんとても意欲的に活動をしています。

水墨画を描き始めて5年の鶴田さんは、「墨の濃淡の魅力に惹かれました。今年は実際に中国の桂林に行き、絵を描いてくる事が楽しみです」。

会員の鈴木さんは水墨画の魅力を、上手い下手関係なく趣味として続けられることだと言います。「先生の手本に合わせて絵の具の配合をするが、その色を作る作業がとても難しい。イメージした色に近づけるために何度もやり直すこともあるんです」と。公民館だよりがきっかけで入会した成田さんは「水墨画と言うと日本の水墨画のように墨の濃淡だけで描くものを想像していたが、中国水墨画は色をつけることに最初は驚きました。でも今は色をつけないと落ち着かない程、中国水墨画の虜なんです」また、会の仲間と美術館めぐりなどをするのが楽しみだそうです。

会の講師である劉偉（りゅうい）先生は中国広西省の出身。温厚な人柄で会員からの信頼も厚く、毎回熱心な指導を続けています。

会の代表、加藤さんは会の展望として、「年2回の展示を続けていきたいです。そして絵を描きに来るだけでなく会員相互の親睦を図るのも会の目的なので、これからもみんなで仲良く水墨画を描いていきたい」と語ってくれました。

只今、会員募集中。

連絡先　加藤☎422・9410

目の不自由な方に声の「公民館だより」をお届けしています　**谷戸図書館（☎421－4545）・柳沢図書館（☎464－8240）へお問い合わせを**